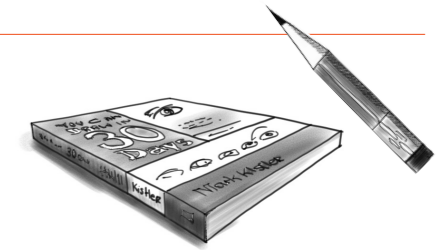


はじめに



✓ 誰でも「絵を描く能力」が「30分で」身につく!

「『自分で絵を描く』なんて、考えただけでぞっとする」

わたしはこれまでたくさんの人に絵の描き方を教えてきましたが、毎回決まってそういう人がいます。「真っ白な紙を目の前にすると、鉛筆をもつ手が固まってしまう」というのです。

でも、それはどうしてなのでしょう?

きっと、どこから描きはじめたらいいのか見当もつかず、「失敗するかもしれない」と不安になるからだと思います。

そんな人でも、ちょっと背中を押してもらって紙の上に鉛筆の先を置けば、すぐに絵を描くことが好きになるでしょう。

「絵の描き方を学ぶのは、とても時間がかかるのでは?」と思いこんでいる人は多いものです。「フルーツを盛った皿と何時間もにらめっこする」とか、「美術館で半日近くかけてスケッチする」とか想像しているに違いありません。

もちろん、そういうやり方もあると思います。しかし、絵が描けるようになるためには、膨大な時間も、特定の場所も必要ではないのです!

そこでわたしは、どんな人でも(そう、みなさんも)、「あっという間に絵が描ける実践的な方法」を考えてみました。

本書のメソッドなら、場所を選ばず、描きたい気分になったときにはいつでも、「30分で作品を描き上げる」ことができます。

「これまで絵なんてまともに描いたことがない」という人でも、もちろん大丈夫です!

✓ 「3つの基本ポイント」をおさえるだけで、誰でもすぐに絵がかけられるようになる!

でも、そんなにすぐに完璧な絵が描けるのでしょうか?

もちろん、それは無理な話です。

YOU CAN DRAW IT IN JUST 30 MINUTES

by Mark Kistler (the "Author")

Copyright © 2017 by Mark Kistler

This edition published by arrangement with Da Capo Press, an imprint of Perseus Books, LLC, a subsidiary of Hachette Book Group, Inc., New York, New York, USA through Tuttle-Mori Agency, Inc., Tokyo. All rights reserved.

でも、練習をすればするほど、絵を描くことへの不安は消えるはず。そうなったら、自分でもびっくりするほど上達していることでしょう。

わたし自身、思ったとおりに描けないことはよくあるし、ボツにした作品は数えきれません。でも、そんなことはちっとも気にしません。

長年絵を描いていますが、日々学ぶことは尽きません。

ですから、この本を手にしたみなさんにも、絵を描くことに対する恐怖心から解放され、気軽に、楽しく、絵を描く方法を学んでほしいと思うのです。

ではさっそく、わたしが考案した「3つの基本ポイント」を紹介しましょう！

30分で絵が描ける！「3つの基本ポイント」

① 設計図をつくる

わたしの絵の描き方は「30分方式」です。最初の数分で、まずは設計図を描きます。設計図を描く最初のステップは、見たままを描こうとするのではなく、描きたいものがどんな図形（三角、長方形、円、正方形など）で成り立っているのかを見極め、下描きをすることです。まずはその方法を覚えてください（詳しくは●ページで解説します）。

要は、「賢いやり方で描く」ということです。

真っ白な紙に向かってやみくもに鉛筆を走らせるのではなく、まずは設計図を描いて、それを整えていくやり方をしてみましょう。

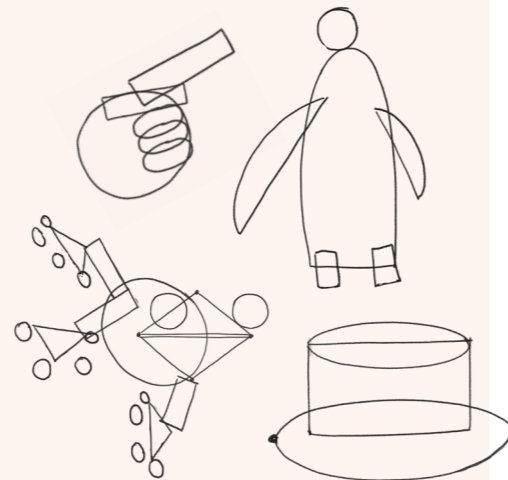
頭で考えるのはやめて、すぐに「創作活動」に入ることが大事です。

絵は描いてこそ楽しめるものだし、描くことで創作意欲も高まっていきます。

あれこれ考えて、「本当に自分に描けるのか？」なんて悩んでいるうちに、創作意欲はしぼんでしまいます。本書の「30分方式」は、創作意欲を削がないように考え出された方法です。

もし時間切れで絵が完成しなかったときには、さらに手を加えようが、消そうが、上に落書きをしようが、塗りつぶそうが、紙をくしゃくしゃに丸めようが、みなさんの自由です。

そして、たとえ気に入らなくても、描いたものは保存しておくことをおすすめします。いくつかの作品を仕上げたあとで見返すと、自分の成長ぶりにきっと驚くはず！



② スピード重視で描く

「時間制限」ほど、画家をやる気にさせるものはありません。たとえそれが、自分で決めた「締切り」でも、です。

なので、本書のレッスンには、ステップごとに「制限時間」（5～10分間程度）を決めています。

ぜひ、アラームをセットして取り組んでみてください。どんな絵でも完成させたいなら、「急がば回れ」ではなく「善は急げ」なのです。制限時間内に終わらなかったときには、次のステップに進みましょう。

できれば、30分のレッスンは何度かくり返してみてください。

作品を仕上げてしまいたければそうしてもかまいませんが、最初は「スピードを最優先」にしてください。

心の声が「自分にできるわけがない」と言い出す前に、どんどん先に進んでいくのが重要です！

③ 「Hack=小ワザ」を使う

簡単な「設計図」を描くこと、そして「早く描く」ということは、楽しく絵を描く（ここが重要です！）ための「賢いやり方」です。

そして、忘れてはいけないのは、「Hack（ハック）」です。

Hack などというと、不正な行為に手を染める人とか、コンピュータのセキュリティシステムに侵入することなどを連想するかもしれません。

最近、Hackという言葉には、「面倒な問題を賢くすばやく解決する方法」（たとえば、「涙を流さずに玉ねぎの皮をむくには、玉ねぎを10分ほど凍らせておく」といったような）、つまり「知っておくと便利なちょっとした小ワザ」を意味するようになりました。

本書は、まさに絵を描くための「小ワザ」の宝庫なのです！

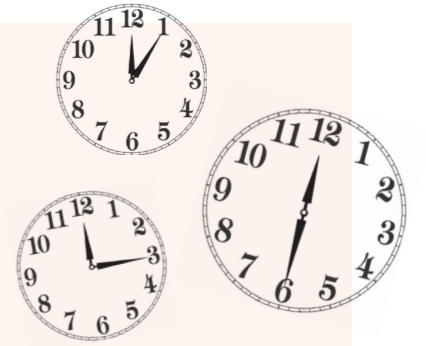
「コインで円を描く」「クレジットカードでまっすぐな線を引く」「自分の小指や親指をなぞって楕円を描く」など、本書のどのレッスンにも、誰でも簡単に使える小ワザを盛り込んでいます。

小ワザを使うからといって、けっしてズルをしているわけではありません。

「芸術家」と呼ばれる人たちも、何千年もの間、道具や助手の力を借りて作品をつくってきました。

レオナルド・ダ・ヴィンチもウォルト・ディズニーも見習いを雇ったし、アンディ・ウォーホルはプロジェクターを使いました。いまでは、コンピュータやアニメーション制作ソフトで絵を描くのが当たり前になっています。

マグカップで円を描くのも、道具を使っているだけで、邪道でも何でもありません。



みなさんにもぜひ、目に見えているものをより正確に写し取る「小ワザ」を身につけ、この先、いろいろなものを自由に描けるようになってほしいのです。

マグカップなしでは円が描けないなんてことになっても、気にしないで大丈夫です。その分、色を塗ったり装飾を加えたりすることで、おおいに創造性を発揮してください！



✓ 「創造性」と「オリジナリティ」は自然に養われる

30年にわたって絵の描き方を教えてきたわたしがよく言われるのが、「自分の作品をただ描き写すよう教えているだけじゃないか」という批判でした。

今度は、次のような否定的な声も聞こえてきそうです。

「小ワザを使えだって？ 創造性のかけらもないな」

わたしは、おそらく次のように答えるでしょう。

「わたしのレッスンを試してもらえば、きっとわかってもらえるはずですよ。まずは絵を描くことこそ大事で、創造性はあとからついてくるものなのです」と。

もちろん、上達するには練習をする必要があります。

しかし、これまで当たり前とされてきた教え方だと、子ども時代にとんでもない努力をしなければならず、結局は絵を描くのが嫌いになってしまいます。

絵を教える教師の多くは、いまだにキーモン・ニコライデスの教え方のままなのです。

ニコライデスという人物は、1938年に出版した『デッサンの道しるべ』（北村孝一訳、エルテ出版、1997年）という本の中で、「失敗を5000回くり返せば、正しいやり方がわかるようになる」といっています。

実際には、こうした試行錯誤の恩恵を受けられるのは、目の前のものを見たまま描けるセンスをもっているひと握りの人だけでしょう。

すでにセンスをもった人たちは、本書で必死になって身につけたいと思っている能力をすでにもっています。

もちろん、わたしはニコライデスの本は大好きです。

しかし、絵を描く勉強の早い段階で「自分にも描けた」と思う体験をもち、コツをつかんだと感じた人ほど、その後も熱心に創作活動に取り組もうとするものなのです。

✓ 「創造力」は、必ずあとからついてくる！

どんな絵を描こうが、「みなさん、よくできました！」と誰彼かまわずほめればいいものではありません。

とはいえ、ちょっとした励みさえあれば、「これからも絵を描きつづけよう」「がんばろう」と思えるのではないのでしょうか。

本書のレッスンの目的は、みなさんに自信と勇気、そして基本的な技術の提供をすることです。

ここで約束しましょう。

「創造力」というものは、必ずあとからついてきます！

課題を何度もくり返し、小ワザを駆使して、「自分にも描ける」という実感を積み重ねていくことで、「自分だけの絵を描きたい」という気持ちが強くなっていくはずですよ。

「図形を描き写す」「影をつける」などアートの技法を学ぶことは、まわりの世界をアーティストの目線で見られるようになるのです。

ですので、本書をボロボロになるまで使い込んでもらいたいです。

本書で紹介する手本やワザを参考にしているうちに、「設計図」を描き、作品が仕上げられるようになるでしょう。

そうなったら、本書を友人にプレゼントし、ぜひ絵を描く喜びを世界中に伝えてください！

ポイントは、手本をそのまま書き写したり、なにもかも本書のとおり完璧にしたりしない柔軟性をもつことです。

＼もっと楽しく、もっと気軽に！／

✓ 全米で大ベストセラーとなった前作『誰でも30日で絵が描ける本』が大きく進化！

前著『誰でも30日で絵が描ける本 (You Can Draw in 30 Days: The Fun, Easy Way to Learn to Draw in One Month or Less ※未邦訳、以下『30日で絵が描ける本』)』は、わたしが大人の読者に向けて書いた最初の本で、大ベストセラーとなりました。そして、本書『誰でも30分で絵が描ける本』を書くきっかけにもなりました。

『30日で絵が描ける本』は、だんだんとレベルアップする30のレッスンを通して、絵の描き方を学ぶアートスクール全体を、すっぽり1冊の本の中につめこんだような本です。わたしの生徒たちは、『30日で絵が描ける本』のレッスンをひとつ終えるたびに、大きな達成感を味わっているようでした。

その姿を見て、「誰もが、いつでも、どこでも、もっと気軽に楽しく絵が描けるようになってほしい！」というわたしの願いを具体的な形にしたいという気持ちが、本書を書くきっかけとなりました。

そこで、絵の一部ではなく、ひとつの作品を30分で完成させてしまう「30分メソッド」を思いついたのです。

初心者でも学びやすい！ 本書の「4つの特徴」

本書は「章ごとにひとつの作品を仕上げる」というコンセプトで、どの章もほぼ同じ流れで構成されています。

① 最初に基本事項を説明

どの章も、テーマにまつわるちょっとした話から始まり、被写体となるものの写真、絵を描くのに必要な道具、絵を構成する「基本図形」のリストが続きます。

わたしがお手本の絵をどこで描いているのか（どこでも描けるということがわかっていただけでしょうか）や、小ワザに利用できる「身近な道具」についても触れています。

② 「小ワザ」「ヒント」「テクニック」を詳しく解説

次は、「小ワザ」「ヒントとテクニック」を説明しています。

じっくり読み、実際に絵を描き始める前に、ここで「伝える技術」を練習しておきます。

わたしは、ものを見るとき、その形を構成している基本図形を見つけるようにしています。

まず、「描こうとしているものの写真」と「基本図形に分解したもの」を並べて掲載します。図形に分解するとはどういうことなのか、どうやって分解するのを理解してもらえれば幸いです。

次に、「描き方のヒント」や「各パーツの大きさを決めるコツ」「レッスンでとくに難しいところ、わかりにくいところの解説」が続きます。

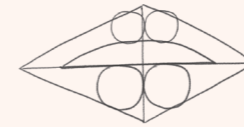
ここでは、遠近感や並行曲線といった用語についても簡単に説明します（手軽に調べることができるよう、この本で紹介したアート用語や技法については、さらに詳しい説明を添えた用語集を巻末にまとめています。●ページを参照ください）。

③ 見開きレイアウトでわかりやすく、使いやすい

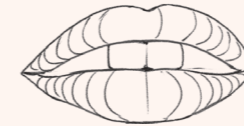
左のページで描き方の手順を紹介し、右のページは空白にしています。ここがみなさんのキャンバス。好きなだけ創作意欲をぶつけてください！

30分のレッスンには、それぞれ時計のマークがついた「4つのステップ」に分か

れ、ほとんどが次のような順番になっています。



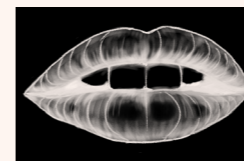
1 基本図形で構成された設計図を作成する
→自分で設計図を描いてみる



2 よりリアルに見えるよう、設計図に手を加えていく
→形を整える



3 影をつける
→光の当たっている場所を確認する
※太陽のイラストは、光が差し込んでくる方向（光源）を示しています



4 さらに手を加え、絵を仕上げる
→完成！

④ 学んだことをさらにステップアップする「チャレンジ！ 応用編」

最後は、「チャレンジ！ 応用編」です。各章の最終ページでは、30分のレッスンを一歩進め、これまで学んだことを応用して新たな作品を制作するアイデアを紹介しています。「ワインボトル」のレッスンのあとに、「ワイングラス」の描き方を説明するというように、レッスンのテーマに関連するものや似た形のものを取り上げたり、そのレッスンで学んだテクニックについて、より詳しく解説したりしています。なかには、「同じ題材をいろいろな手法で描く方法」も紹介しています。

絵の描き方はひとつではなく、上達するのにも「正しい」やり方などはありません。いろいろなパターンで楽しく学んでいくうち、どんどん上達していきます！

✓ これを知っておくだけで、格段に
絵が上手くなる！「絵を描くための7つのコツ」

どの章にも、レッスンに応じた「絵を描くコツ」がふんだんに盛り込まれています。次に紹介するのは、あらゆるときに自分が描きたいと思うものに応用できるコツです。

ぜひチェックしてみてください。

絵を上手く描くための7つのコツ

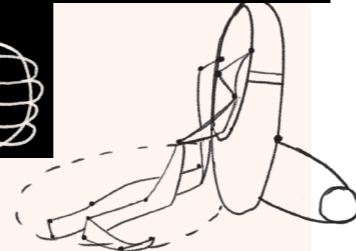
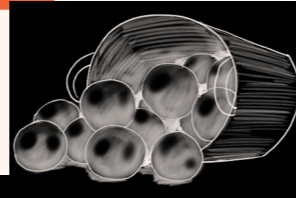
① 軽いタッチで描く

線を消したり整えたりすることで、絵はいきいきとしてきます。最初の一筆から、描きたい場所に線が引ける人はいません。

30分のレッスンでは、「消す」ことが基本のテクニックです。

どのレッスンも、基本図形を描くことから始まりますが、図形をすばやく描くだけでなく、すばやく消して、すばやく描き直すことが求められます。

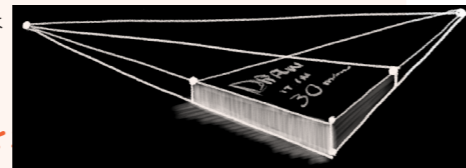
影も、できるだけ薄く描き込むことになります。力みすぎず、軽いタッチで描くことを意識しましょう。



② 絵を汚さないために「汚れ防止カバー」を

仕上がった部分にきれいな紙をかぶせてカバーしましょう。

そうすれば、ほかの部分を描いているときに、自分の手でこすって汚さなくて済みます。こういったひと手間によって、ずいぶんストレスは減るはずですよ。

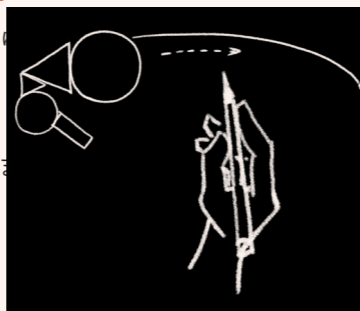


③ 「紙は動かしてもいい」ということを忘れない

紙の向きを変えながら描くのは、邪道でも何でもありません。

誰でも、自分にとって描きやすい方向があります。

紙の向きひとつで描きやすくなるなら、ぜひそうしましょう。



④ 「鉛筆メジャー」のワザを使う

いろいろなレッスンで使える「鉛筆メジャー」のテクニックを紹介します。

描きたいものの各パーツの「相対的な大きさ」を見極め、それを紙の上に描き起こすときに、このワザが使えます。

まず、ペンや鉛筆を手にもって、片目を閉じてみましょう。

ペンや鉛筆を、「測りたいもの」の横に添えて、長さや幅が同じところを指で示せば、大きさが測れます。「測りたいもの」が部屋の向こう側でも、本の中の写

真、パソコンの画面に映る画像でも、やり方は同じです。

このワザを使って、同じもののいろいろな部分を測るときは、つねに一定の距離を保つように注意しましょう。対象物に近づきすぎると、鉛筆で測った大きさもその分、大きくなるので、あとで測り直すことになります。

⑤ 比率を測る「視点」をもつ

画家は「描こうとするパーツ」を目で測るときには、ほかの部分と比較しながら見えています。

本書では、絵のパーツに特定の「大きさ」を指定することもあります。それぞれのパーツの大きさは、互いに相関関係にあります。そのことを意識しながら描いていきましょう。

頭と胴体を描きたいなら、胴体が「何頭身」なのかを考えることです。

もし高さが幅の3倍ある花瓶が描きたいなら、4で紹介した「鉛筆メジャー」や、各章で紹介している「大きさを測るワザ」を活用してみましょう。

⑥ 身近にあるもので「即席定規」をつくる

メモ用紙を半分に折り、さらに半分、そしてもう一度半分に折ります。

それを広げれば、あっという間に「即席定規」のできあがりです！

折り目が定規の代わりとなります。各パーツの大きさの比率を測る、手っ取り早い方法のひとつです。

絵のパーツを測るときに、ちゃんとした定規は必要ありません。

自分の小指を「小指の長さがひと目盛りの定規」として使うこともできます。長さを測るのにコインを使ってもいいでしょう。

⑦ 「ぼかし」を楽しむ

鉛筆画では、「影をぼかす」ことで、より洗練されたりアルな絵になります。

わたしは影をぼかすのに、自分の指や、「擦筆（ブレンディングスタンプ）」と呼ばれる道具を使っています。

擦筆は、紙をきつく巻いて、両端をペンのように尖らせたものです。

値段も安く、画材店やネットショップなど、どこでも購入できるので、1箱買っておくことをおすすめします。

とはいえ、本書は「手軽に手に入るものや、すでに手元にあるものをできるだけ



を利用しよう」というコンセプトです。

擦筆をもっていないなら、「オリジナルの擦筆」をつくってみましょう。

折りたたんだナプキンやティッシュ、ペーパータオルなんかも使えますし、形にこだわるなら、鉛筆の先に柔らかい紙を巻きつけてもいいでしょう（輪ゴムで止めれば完璧です!）。

「ぼかし」のワザは、どのレッスンにも使えます。「ワインボトル」レッスン（「レッスン16」、●ページ）や「貝殻」レッスン（「レッスン24」、●ページ）では、ぼかしの実践的なテクニックについても解説します。



✓ 友人の画家たちも参加、さらに創造性豊かな内容に

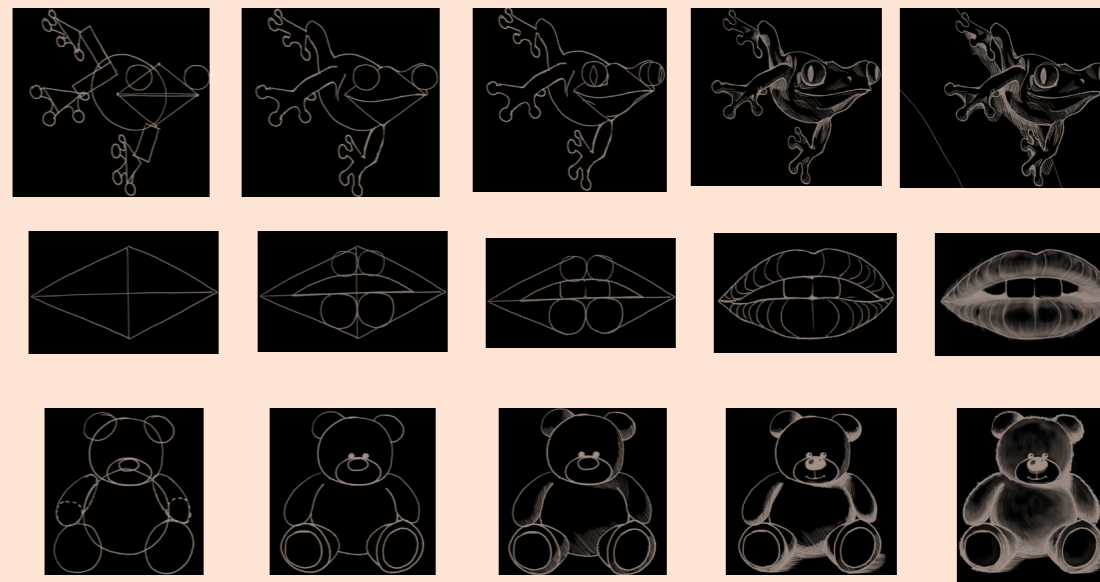
本書に掲載されているのは、わたしの作品だけではありません。友人の画家たちの作品も掲載しています（彼らの名前は、●ページの「謝辞」や実際に作品を掲載した章で紹介しています）。

すでに絵を描いている人も、いままさに絵を学んでいる人も、この「30分方式」を活用すれば、自らの創造性を働かせ、さらに磨きをかけることができるでしょう。

楽しみながらレッスンに取り組み、なによりも本書で紹介している「ワザ」の数々を使って、自分だけのオリジナリティあふれる絵を、どんどん描いてください!

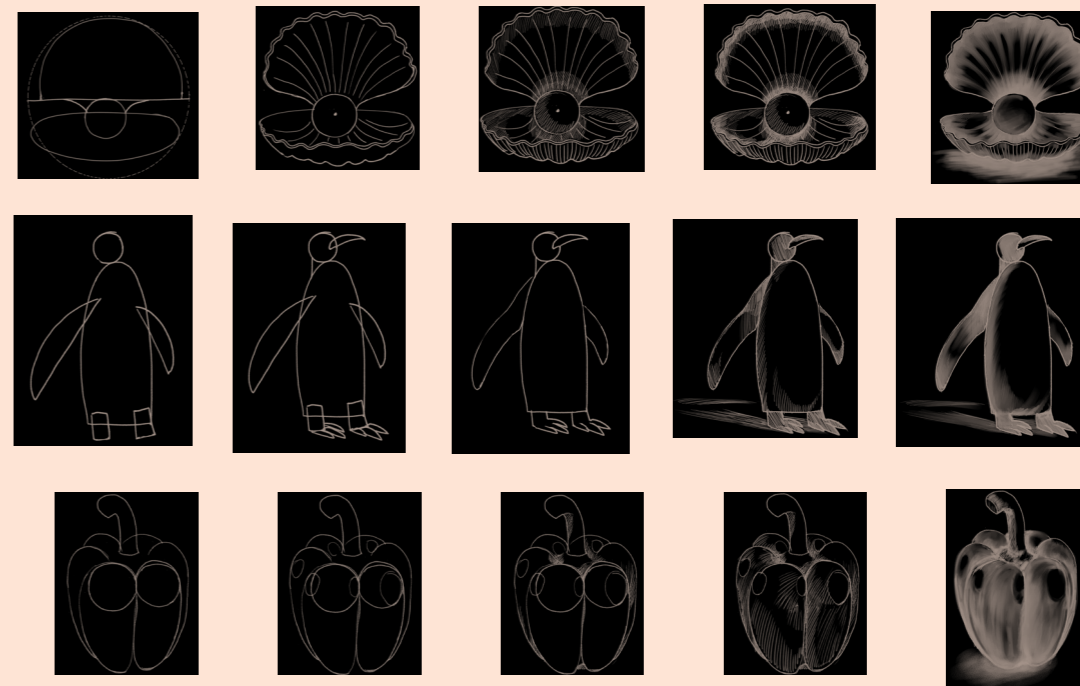
そしてみなさんの作品や感想、アイデアを、ぜひEメールでわたしのところ（mark@markkistler.com）に送ってください。

どんなことがあっても、絵は描きつづけることが大切ですよ!



誰でも30分で絵が描けるようになる本
——「3つの基本」と「7つのコツ」で、驚くほど絵が上手くなる!

目次



はじめに 13

誰でも「絵を描く能力」が「30分」身につく!
「3つの基本ポイント」をおさえるだけで、
誰でもすぐに絵がかけられるようになる!

30分で絵が描ける! 「3つの基本ポイント」 ... 28

- ① 設計図をつくる
- ② スピード重視で描く
- ③ 「Hack=小ワザ」を使う

「創造性」と「オリジナリティ」は自然に養われる
「創造力」は、必ずあとからついてくる!
全米で大ベストセラーとなった前作
『誰でも30日で絵が描ける本』が大きく進化!

初心者でも学びやすい! 本書の「4つの特徴」 ... 000

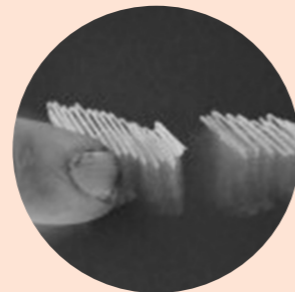
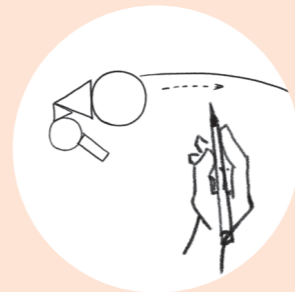
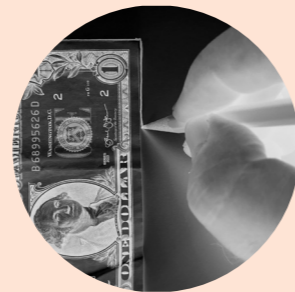
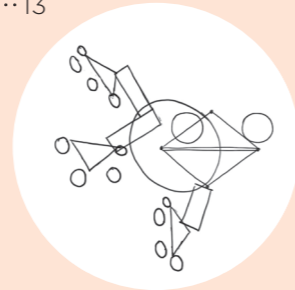
- ① 最初に基本事項を説明
- ② 「小ワザ」「ヒント」「テクニック」を詳しく解説
- ③ 見開きレイアウトでわかりやすく、使いやすい
- ④ 学んだことをさらにステップアップする「チャレンジ! 応用編」

これを知っておくだけで、格段に絵が上手くなる!
「絵を描くための7つのコツ」

絵を上手く描くための7つのコツ ... 000

- ① 軽いタッチで描く
- ② 絵を汚さないために「汚れ防止カバー」をかける
- ③ 「紙は動かしてもいい」ということを忘れない
- ④ 「鉛筆メジャー」のワザを使う
- ⑤ 比率を測る「視点」をもつ
- ⑥ 身近にあるもので「即席定規」をつくる
- ⑦ 「ぼかし」を楽しむ

友人の画家たちも参加、さらに創造性豊かな内容に



Lesson 1 **まずはこれから! 大人も子どもも大好きな、楽しいモチーフ!**
1 30分で「バナナ」を描こう 000

- バナナを分解する
- 30分でバナナを描く「小ワザ」
- 上手く描くための「ヒント」と「テクニック」
- さあ、「バナナ」を描いてみよう! ... 000
- ここに描いてみよう! ... 000

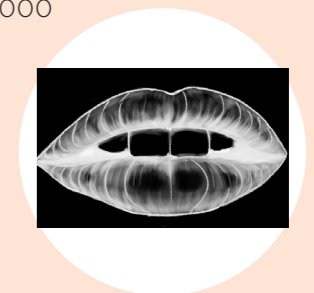
チャレンジ! 応用編 「ひだ」を描いてみよう! ... 000



Lesson 2 **誰でも簡単に描けて失敗しない! 「30分レッスン」の基本!**
2 30分で「口」を描こう 000

- 口を分解する
- 30分で口を描く「小ワザ」
- 上手く描くための「ヒント」と「テクニック」
- さあ、「口」を描いてみよう! ... 000
- ここに描いてみよう! ... 000

チャレンジ! 応用編 「円柱」を描いてみよう! ... 000



Lesson 3 **3次元は難しくない! 身近な道具だけで「立体感」が出せる!**
3 30分で「椅子」を描こう 000

- 椅子を分解する
- 30分で椅子を描く「小ワザ」
- 上手く描くための「ヒント」と「テクニック」
- さあ、「椅子」を描いてみよう! ... 000
- ここに描いてみよう! ... 000

チャレンジ! 応用編 「座り心地のよさそうな椅子」を描いてみよう! ... 000



Lesson 4 **愛嬌たっぷりのペンギンは、「指」を使えば短時間で描ける!**
4 30分で「ペンギン」を描こう 000

- ペンギンを分解する
- 30分でペンギンを描く「小ワザ」
- 上手く描くための「ヒント」と「テクニック」
- さあ、「ペンギン」を描いてみよう! ... 000
- ここに描いてみよう! ... 000

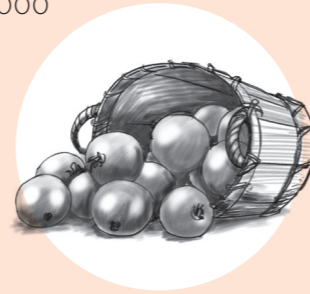
チャレンジ! 応用編 「氷上のペンギン」を描いてみよう! ... 000



Lesson 5 重なり合う「球体」も、「2段階方式」で描けば難しくない!
30分で「カゴに入ったトマト」を描こう……000

- カゴに入ったトマトを分解する
- 30分でカゴに入ったトマトを描く「小ワザ」
- 「カゴに入ったトマト」の設計図を2段階で分解する
- さあ、「カゴに入ったトマト」を描いてみよう! … 000
- ここに描いてみよう! … 000

チャレンジ! 応用編 「リアルな球体」を描いてみよう! … 000



Lesson 6 複雑なパーツはコインを使えば簡単! 「影付け」の練習に最適!
30分で「ブーツ」を描こう……000

- ブーツを分解する
- ブーツのパーツの名称について
- 30分でブーツを描く「小ワザ」
- 上手く描くための「ヒント」と「テクニック」
- さあ、「ブーツ」を描いてみよう! … 000
- ここに描いてみよう! … 000

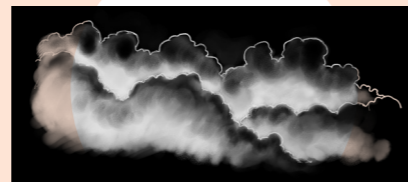
チャレンジ! 応用編 ブーツでも何でも「積み木」にして描いてみよう! … 000



Lesson 7 スピードやリズムを変えて、あえて不規則に描くのがポイント!
30分で「雲」を描こう……000

- 雲を分解する
- 30分で雲を描く「小ワザ」
- 上手く描くための「ヒント」と「テクニック」
- さあ、「雲」を描いてみよう! … 000
- ここに描いてみよう! … 000

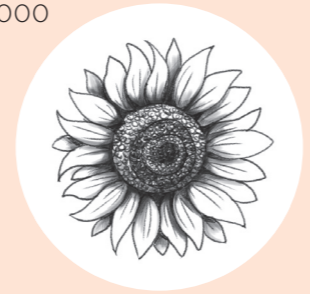
チャレンジ! 応用編 ふわふわの「3D 雲文字」を描いてみよう! … 000



Lesson 8 繰り返しと不規則性、影を描く楽しさ……イチョシレッスン!
30分で「ひまわり」を描こう……000

- ひまわりを分解する
- 30分でひまわりを描く「小ワザ」
- 上手く描くための「ヒント」と「テクニック」
- さあ、「ひまわり」を描いてみよう! … 000
- ここに描いてみよう! … 000

チャレンジ! 応用編 「花びら」を描いてみよう! … 000



Lesson 9 お札やコインを使った「小ワザ」で、あっという間に完成!
30分で「鼻」を描こう……000

- 鼻を分解する
- 30分で鼻を描く「小ワザ」
- さあ、「鼻」を描いてみよう! … 000
- ここに描いてみよう! … 000

チャレンジ! 応用編 「アーティストの目」で見えてみよう! … 000



Lesson 10 複雑そうな「自然の造形美」も、図形にバラせば意外と簡単!
30分で「タツノオトシゴ」を描こう……000

- タツノオトシゴを分解する
- 30分でタツノオトシゴを描く「小ワザ」
- 上手く描くための「ヒント」と「テクニック」
- さあ、「タツノオトシゴ」を描いてみよう! … 000
- ここに描いてみよう! … 000

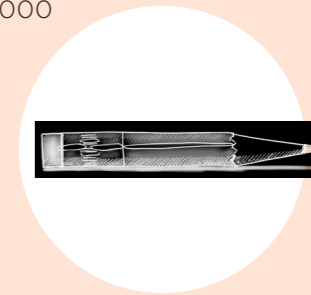
チャレンジ! 応用編 「リーフィードラゴン」を描いてみよう! … 000



Lesson 11 「グレー」と「ハイライト」の効果で、誰でも立体感を出せる!
30分で「鉛筆」を描こう……000

- 鉛筆を分解する
- 30分で鉛筆を描く「小ワザ」
- 上手く描くための「ヒント」と「テクニック」
- さあ、「鉛筆」を描いてみよう! … 000
- ここに描いてみよう! … 000

チャレンジ! 応用編 鉛筆に「命」を吹き込む!? … 000



Lesson 12 使える! 「ハイライト・マッピング」で「丸み」と「光沢」を演出
30分で「パプリカ」を描こう……000

- パプリカを分解する
- 30分でパプリカを描く「小ワザ」
- 上手く描くための「ヒント」と「テクニック」
- さあ、パプリカを描いてみよう! … 000
- ここに描いてみよう! … 000

チャレンジ! 応用編 「光の移動」に挑戦してみよう! … 000



Lesson 13 美しい硬質感を表現するには、「遠近感」と「立体感」がカギ!
30分で「スマートフォン」を描こう……000

- スマートフォンを分解する
- 30分でスマートフォンを描く「小ワザ」
- 上手く描くための「ヒント」と「テクニック」
- さあ、「スマートフォン」を描いてみよう! … 000
- ここに描いてみよう! … 000

チャレンジ! 応用編 「カードの家」を描いてみよう! … 000



Lesson 14 ウォーホールも使った「小ワザ」で、簡単にアーティスト気分!
30分で「スープ缶」を描こう……000

- スープ缶を分解する
- 30分でスープ缶を描く「小ワザ」
- 大きさを決めるコツ
- 上手く描くための「ヒント」と「テクニック」
- さあ、「スープ缶」を描いてみよう! … 000
- ここに描いてみよう! … 000

チャレンジ! 応用編 缶を「アニメ風」に描いてみよう! … 000



Lesson 15 実用的なアイデア満載! リラックスして描いてみよう!
30分で「指」を描こう……000

- 指を分解する
- 30分で指を描く「小ワザ」
- 上手く描くための「ヒント」と「テクニック」
- さあ、「指」を描いてみよう! … 000
- ここに描いてみよう! … 000

チャレンジ! 応用編 「サムズアップ!」を描いてみよう! … 000



Lesson 16 シンプルだけど奥深い! 「光の反射」と「影」を表現するコツ
30分で「ワインボトル」を描こう……000

- ワインボトルを分解する
- 30分でワインボトルを描く「小ワザ」
- 上手く描くための「ヒント」と「テクニック」
- さあ、「ワインボトル」を描いてみよう! … 000
- ここに描いてみよう! … 000

チャレンジ! 応用編 「ワイングラス」を描いてみよう! … 000



Lesson 17 インスピレーションを養う! 図形を積み重ね、組み立てるワザ
30分で「アマガエル」を描こう……000

- アマガエルを分解する
- 30分でアマガエルを描く「小ワザ」
- さあ、「アマガエル」を描いてみよう! … 000
- ここに描いてみよう! … 000

チャレンジ! 応用編 よく観察し、「形」を見極めよう! … 000



Lesson 18 「多面体」は、立体的に描く練習にぴったりのモチーフ!
30分で「サイコロ」を描こう……000

- サイコロを分解する
- 30分でサイコロを描く「小ワザ」
- 上手く描くための「ヒント」と「テクニック」
- さあ、「サイコロ」を描いてみよう! … 000
- ここに描いてみよう! … 000

チャレンジ! 応用編 「積み木」で遊んでみよう! … 000



Lesson 19 複雑そうなキッチン用品も、30分で「機能美」を表現できる!
30分で「ミキサー」を描こう……000

- ミキサーを分解する
- 30分でミキサーを描く「小ワザ」
- 上手く描くための「ヒント」と「テクニック」
- さあ、「ミキサー」を描いてみよう! … 000
- ここに描いてみよう! … 000

チャレンジ! 応用編 ミキサーを「めちゃくちゃいっぱい」描いてみよう! … 000



Lesson 20 「幸せの象徴」のふわふわ感は「計画的カオス」で描く!?
30分で「テディベア」を描こう……000

- テディベアを分解する
- 30分でテディベアを描く「小ワザ」
- 大きさを決めるコツ
- 上手く描くための「ヒント」と「テクニック」
- さあ、「テディベア」を描いてみよう! … 000
- ここに描いてみよう! … 000

チャレンジ! 応用編 「ユニベアー」を描いてみよう! … 000



Lesson 21 ありふれたモチーフほど、じつは絵に描くとおもしろい!
30分で「紙袋」を描こう.....000

- 紙袋を分解する
- 30分で紙袋を描く「小ワザ」
- 上手く描くための「ヒント」と「テクニック」
- さあ、「紙袋」を描いてみよう! ... 000
- ここに描いてみよう! ... 000

チャレンジ! 応用編 「箱だらけ」に挑戦! ... 000



Lesson 22 思わず夢中、飽きずに描ける! 「陰影」のつけ方を学ぶならこれ!
30分で「ウェディングケーキ」を描こう.....000

- ウェディングケーキを分解する
- 30分でウェディングケーキを描く「小ワザ」
- 上手く描くための「ヒント」と「テクニック」
- さあ、「ウェディングケーキ」を描いてみよう! ... 000
- ここに描いてみよう! ... 000

チャレンジ! 応用編 ケーキを描くのは「ピース・オブ・ケイク朝飯前」!? ... 000



Lesson 23 何気なく置かれた本も、「二点透視図法」で存在感が増す!
30分で「本」を描こう.....000

- 本を分解する
- 30分で本を描く「小ワザ」
- 上手く描くための「ヒント」と「テクニック」
- さあ、「本」を描いてみよう! ... 000
- ここに描いてみよう! ... 000

チャレンジ! 応用編 「遠近感」を出す練習をしよう! ... 000



Lesson 24 「影」と「ハイライト」の絶妙なバランス感覚でテクニックを試す!
30分で「貝殻」を描こう.....000

- 貝殻を分解する
- 30分で貝殻を描く「小ワザ」
- 大きさを決めるコツ
- 上手く描くための「ヒント」と「テクニック」
- さあ、「貝殻」を描いてみよう! ... 000
- ここに描いてみよう! ... 000

チャレンジ! 応用編 「カタツムリの殻」を描いてみよう! ... 000



Lesson 25 曲線+直線、丸み+シワ、立体+平面.....最後は「ワザ」の集大成!
30分で「トウシューズ」を描こう.....000

- トウシューズを分解する
- 30分でトウシューズを描く「小ワザ」
- 大きさを決めるコツ
- 上手く描くための「ヒント」と「テクニック」
- さあ、「トウシューズ」を描いてみよう! ... 000
- ここに描いてみよう! ... 000

チャレンジ! 応用編 「リボン」を楽しく描いてみよう! ... 000



特別付録

これさえ覚えておけば、みるみる絵が上手くなる!
アート用語集30〈この本で使用した言葉〉.....000

謝辞.....000



Lesson

1

まずはこれから！ 大人も子どもも大好きな、楽しいモチーフ！

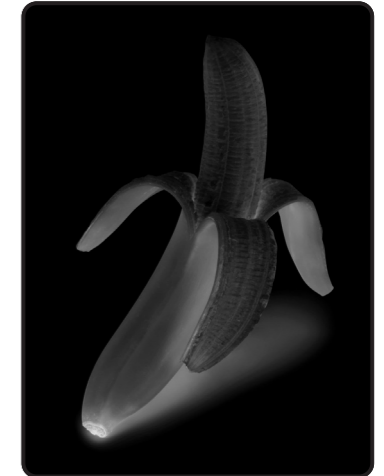
30分で「バナナ」を描こう

バナナというのは、まったく面白い果物です。「バナナ」という言葉を口にするだけで楽しい気分になりますよね。

子どもにバナナの描き方を教える機会は多いのですが、バナナを描いていると、**絵を描くことがいかに楽しいか、そして、絵を描いているときは、誰もが「特別な感覚」を味わえる**と感ずることでしょう。

わたしのレッスンの中で、子どもたちにいちばん人気があるのは「**ニンジャバナナ**」です。バナナに、「**ニンジャマスク**」と目を描き入れるというレッスンで、熟したバナナを強そうな忍者に見立てるという発想に、子どもたちは（もちろんわたしも）大喜びです。

だからみなさんが、この奇妙なフルーツを描いている間に思わず笑いがこみ上げるのも、とても自然なことなのです。



このバナナを描いた場所

オレゴン州ポートランドで開催された「コミックコン」（漫画などの大衆文化に関するコンベンションの大規模イベント）にゲストアーティストとして招かれたとき、休憩（バナナブレイク）中に。

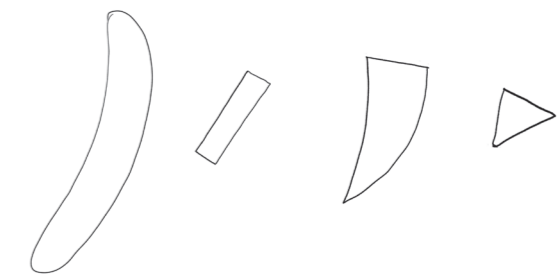
バナナを描くのに必要な道具

- ▶ 鉛筆
- ▶ 消しゴム
- ▶ バナナを描く紙（●ページのスペースを使ってもOK）
- ▶ 自分の手、バナナ、またはカーブした形状のもの



このレッスンで描くバナナ

みなさんに描いていただくのは、この皮をむいた状態のバナナです。難しいって？ どうかため息をつかないでください！ コツさえつかめば、とっても簡単です



バナナの基本図形